

第 63 回宇宙理学委員会 議事録

日時：2018 年 12 月 25 日（火）11:00～12:33

場所：宇宙科学研究所 研究管理棟 1 階入札会議室

出席者：山田委員長、渡邊副委員長、清水幹事、篠原幹事、山崎幹事、

井口委員、一本委員、今村委員、上野委員、白井委員、金田委員、河合委員（TV）、倉本委員、郷田委員、斎藤委員、高橋委員（TV）、田代委員、田中委員、中川委員、羽澄委員、三好委員、山岸委員、吉田委員

宇宙研：藤本副所長、満田 PD

事務局：科学推進部 和木、石崎

会議開始に先立ち、前回新委員として承認された白井寛裕氏(ISAS)から挨拶があった。

1. 前回議事録確認（審議） 資料 1

資料 1-1, 資料 1-2 に関して承認された。

2. 理学委員会委員選定委員会 資料 2

山田委員長より、来年度からの次期宇宙理学委員会委員の選出に関して資料 2 の確認がなされた。連続選出は第 55 回議事詳録に記載されたルールに従い、投票による上位得票者は投票結果を尊重するが絶対ではなく分野バランスを考慮して選出すること等を確認した。選出委員会は、理学委員長、理学委員会からの推薦 2 名、ISAS から提案され委員会としてエンドースする所内委員 2 名から構成する。後日その選出に関してメール審議を行う。

3. あらせ定常運用終了審査について 資料 3

資料 3 は前回委員会の口頭報告をサポートする資料で、回覧する。

4. Geotail 運用延長審査 資料 4

資料 4-1 で所長からジオテイル衛星の後期運用延長に関する審査実施の依頼があり、満田 PD より説明があった。資料 4-2 は前回の審査報告書である。今回の審査では、長期運用継続の観点からの委員会からの答申も期待される。サイエンス対コストの視点でジオテイルの優先度の評価が求められるが、コストに関する必要な基礎資料は ISAS より提供される。全体の中でのガイドラインがあって、個々のミッションの審査がなされるというのが将来的にあるべき姿であり、この視点についても議論があると今後につながると考えられる。運用延長審査を行う委員については後日依頼される。

5. 2018 年度戦略的開発研究費の報告書提出と 2019 年度提案募集について 資料 5

篠原幹事より資料 5 の説明があった。前年度の募集からの新しい点は、審査事項の明確化、カテゴリー

分け、WG 年次報告書との重複がないような改訂、などである。なお、本内容での募集発出についてはメール審議済みである。

6. 2018 年度搭載機器基礎開発研究費の報告書提出と 2019 年度提案募集について 資料 6

清水幹事から資料 6 の説明があった。前回委員会でのコメントを受けて、調達における契約相手方の共同研究者への参加に関してコンプライアンス観点からの文面の修正、提案課題における共同研究者の重複による不採択に関して審査開始前に運用で避ける対応を事務局で行う点、について報告があり、審議の結果公募発出が認められた。

河合委員より、採択数を絞り大きな経費を付ける選択と集中の方針に変更されてから久しいので、この方針で本経費が有効に活用されているかを評価する時期に来ているとの指摘があった。

7. WG 主査会議について 資料 7

山田委員長より開催された WG 主査会議について資料 7-1 に基づき報告がなされた。提出済の WG 活動報告書に関して、理学委員会の見守り活動の観点で、チェックやコメントのフィードバックを WG に対して行うことになった。次回宇宙理学委員会で報告していただき、その報告を戦略経費選考の参照にしようとする予定である。

8. WG 審査 資料 8-1 ~ 8-5

中川委員(WG 設置審査委員長)より、WG 設置審査委員会の審査結果について報告があり、下記のように審議が行われた。

8-1) K-EUSO WG 延長審査 資料 8-1

WG から延長の希望が出されている。前回宇宙理学委員会において継続が妥当との WG 設置審査委員会からの提案が差戻しとなった。WG 設置審査委員会では、3 項目の検討課題を抽出し評価を行った結果 WG 活動の意義はあると判断した。しかし様々な議論が行われた結果として、WG には新たな技術的課題やそれに関する計画等が分かる申請書に改訂して頂き、サイエンスや計画の面で WG 延長が妥当であるかを再度 WG 設置審査委員会および次回宇宙理学委員会(またはメール)で審議することとした。なお、1 月毎の戦略経費への応募は条件付きで可能とする。

8-2) SMILES2 WG 延長審査 資料 8-2

WG から延長希望が出され、2017 年度公募型小型提案において指摘された 3 つの課題に対する具体的な検討を行う。WG 設置審査委員会により WG 活動の延長は妥当であると判断され、WG 延長が承認された。

8-3) APPROACH WG 終了審査 資料 8-3

2017 年度公募型小型提案の結果として、WG より活動終了が申請された。ペネトレータ技術について今後の発展のためにより広い枠組みのもとで検討することが妥当であり、WG は解散して新たな計画の検討に戻ることが妥当であると WG 設置審査委員会により判断があり、WG 終了が承認された。

8-4) FACTORS 新規 WG 設立の提案 資料 8-4

編隊飛行によって宇宙プラズマの時間変動と空間変動を分離する公募型小型ミッションである。WG 活動を通じて科学目的の明確化等が図られる必要があり、WG 設置審査委員会による審査結果どおり WG 設立が承認された。なお、SCOPE で行ったサイエンスや技術との比較は必要との意見が出された。

8-5) GEO-X 新規 WG 設立の提案 資料 8-5

地球磁気圏を X 線で撮像する 50kg 級小規模ミッションである。衛星システムの集中的な検討等が必要であり、WG 設置審査委員会による審査結果どおり WG 設立が承認された。

9. RG 設立・延長審査 資料 9

RG 設立(ESA Fast Mission 参加)と RG 延長(X 線ガンマ線偏光観測)の提案に関して、メール審議を依頼する予定である。

10. WG から所内チームへの移行について 資料 10

満田 PD により、資料 10 を用いて「戦略的海外共同計画」の立ち上げ方について説明がなされ、よりボトムアップ的立ち上げ方について理学委員会等から提案が欲しいと要望された。時間がなくなったので本日は説明のみに留めて、次回の理学委員会にて議論を行うこととした。

最後に、新たに WG 審査の申請 2 件(新規で LISA, 系外惑星 UV 分光の活動内容変更)が届いており、WG 設立審査委員会での審査、戦略経費〆切までにメール審議を行う可能性がある。

以上